
創立100周年記念



令和2年(2020年)11月14日
長野県下伊那農業高等学校



◇記念式典 (10:00 ~ 11:15)

- 一 開式の辞
- 一 実行委員長挨拶
- 一 学校長式辞
- 一 教育委員会挨拶
- 一 来賓祝辞
- 一 来賓紹介・祝電披露
- 一 感謝状贈呈
- 一 生徒代表挨拶
- 一 校歌演奏
- 一 閉式の辞

◇生徒発表 (9:20 ~ 9:40)

「100年の歩み」ビデオ上映

◇100周年展 (朝 8:00 ~ 9:40、式典終了後 11:30 ~ 13:00)

場所 創立100周年記念棟「蛟竜館」

記念事業により整備されたICT環境



長野県農業高校生進学学習会『信州クラーク塾』
リモート会議システムを利用した学習会を創立100
周年記念棟「蛟竜館」にて開催



本校を希望する中学生向け授業公開後の校友会・
農業クラブ・専門研究班活動紹介をICT機器を
利用し多目的教室にて開催



greet

ご挨拶



創立 100 周年を迎えて

実行委員長・同窓会長 関島伸喜

大正9年郡立下伊那農学校として、郡民の大きな期待を背負い開校した母校は、大正、昭和、平成を経て今年令和2年4月、100周年という記念すべき節目の年を迎えました。

同窓生も1万9千名を超え多くがこの伊那谷に足跡を刻み、更に全国各地に、世界へと活躍されており心から敬意を表するところであります。毎年の卒業生が積み上げた石垣に、脈々と続く恩師の薫陶が映え、更に地域の方々の支えを受けこの稲井が丘に農業教育の理想を高く掲げ威風堂々と変わらぬ存在を保ち続けております。関係するすべての方々に深甚なる感謝と御礼を申し上げます。

本日ここに各種記念事業の完成と共に、記念式典が挙行出来ます事はこの上ない喜びであります。しかしながら新型コロナウイルス蔓延の影響で、記念式典の計画を変更せざるを得ず、代表者で行う記念式典とし、講演会、祝賀会、中国交流事業は中止とする事としました。誠に残念ですがご理解いただきたく存じます。

記念事業実施に当たりましては、同窓会、学校、PTAそして地域の方々、関係企業の皆様から心温まる多くの浄財をお寄せいただきました。新時代を背負う若き農高生の学びの環境整備に役立てて参ります。心から御礼申し上げます。

創立以来時代の荒波に揉まれながらも農業教育の原点を守り抜いた今日までの母校の姿を、これから発刊する記念誌をお求め願い末永く御覧いただきたいと思っております。

いま地域農業は人口の変動と共に農山村の疲弊が強まり、田園まさに荒れなるとする姿があります。行き過ぎた経済成長は地球温暖化を招き、地球規模の大災害を誘発、更にコロナ禍もその延長線上にあると言われます。故に人々は現代社会に疑問を持ち始め、都会志向から田園生活を求める動きに変えつつあります。ITの農業活用、スマート農業の未来、SDGs(持続可能な開発目標)等々農業の未来は明るさを増し、こうした時代にこそ母校の果たす役割が見えてきます。100年の歴史を踏まえ新たな地方の時代を切り開く、若き農業者の育成に力強く踏み出す事を心から願うものです。

最後に 地域の皆様、同窓生をはじめとする関係者の皆様に心から感謝し、今後も力強いご支援を賜ります様お願い申し上げます。



創立 100 周年の節目を迎えて

副実行委員長・PTA会長 宮嶋則幸

長野県下伊那農業高等学校が創立100周年を迎え、「withコロナ」の時代の中ではありますが、記念式典を開催できますこと、誠に喜び申し上げます。

地域の熱い思いと期待のもと、1920年(大正9年)、郡立下伊那農学校として開校しました。当時の生徒の方々は、自ら農地を開拓しグラウンドを拡張するなど、農学校の精神「開拓精神」をもって、学校の礎を築かれました。そして、1948年(昭和23年)4月に学制改革により、現在の長野県下伊那農業高等学校となりました。

3つの教育方針を掲げ、「～豊かな人間性を育むいのちの教育～」をスローガンに、校長先生をはじめとする教職員の方々は、生徒の皆さんと真摯に向き合い、実践的・体験的な学習を通して命の大切さや尊さ、豊かな人間性を育み、専門的・先進的な教育を行い、グローバルな視野をもつ地域社会に貢献する人材の育成に取り組んでおられます。100周年記念碑に刻まれた「命に学び心を育む」は、まさにその象徴です。

私は、この100周年を迎える年にPTA会長を務めさせていただき、誠に光栄の至りです。PTA活動などを通して地域の方々との接する機会が多く、「下農の生徒さんは人間性がいい」「下農の生徒はいい子が多い」「下農を卒業された方々は礼儀正しい」などの様々な声や評判をお聞きます。これは創立以来100年の歳月の間、下伊那農業高等学校の教育方針のもとで取り組んでこられた先生方の教育実践の賜物であり、それを真摯に受け止め学び励んでこられた生徒の皆さんの努力の成果だと思っております。100年という歴史と伝統を積み重ねていくうえで、地域に愛されるということほど大切なことはありません。いつまでも地域の方々から愛される下伊那農業高校であってほしいと願っています。私も卒業生の一人として誇りに思います。

この100周年を共に迎える生徒の皆さんは、この恵まれた教育環境の整った下伊那農業高等学校で学んでいることに心から感謝してください。将来きっと、下農で学んでよかったと思える時が来るでしょう。

終わりに、下伊那農業高等学校の発展と同窓会各位のご健勝とご活躍を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。



greet

ご挨拶



命に学び 心を育み 100周年

校長 村澤 博富美

長野県下伊那農業高等学校創立100周年の記念式典を、コロナ禍の中ではありますが、ここに挙行できますことは誠に意義深く、同窓生・PTAの皆様をはじめ、在校生・教職員一同にとりましても、この上ない喜びでございます。本校に熱い思いを寄せていただきました多くの皆様方に心より感謝申し上げます。

また、国際理解教育の先駆けとして始まった中国蘇州農業職業技術学院との交流も30周年を迎え、本日ここに併せて祝うことができますことを大変うれしく思います。

本校は、大正9年（1920年）、飯田下伊那地域の農業振興への期待を受け、ここ稲井ヶ丘の高台に郡立下伊那農学校として開校しました。戦後、昭和23年の学制改革により現校名に改称され、定時制の併設や17分校の設置、幾多の学科変遷を経て、現在は特色ある4学科を有する県内最大級の農業科専門高校として、100年の歴史と伝統を積み重ねて参りました。一世紀の長きに亘り、飯田下伊那の発展を支える若者を育て、1万9千有余名の有為な人材を世に送り出し、今日まで果たしてきた役割を顧みれば、まさに地域に根ざし地域と共に歩んできた学校であると自負しております。

地元出身の英文学者・日夏耿之介先生作詞の校歌の一節「農はわれらのいのちかな」は、開学以来の「質実剛健・誠実堪能・積極真摯」の校訓とともに、ゆるぎない農業教育の神髄として脈々と息づき、新渡戸稲造博士の揮毫された「Boys, be Ambitious!」「學如登山」は万代の宝であり、向学の拠り所となっています。生徒たちは、知行合一の農業学習に主体的・意欲的に取り組み、「専門的な学び」と「地域での学び」を両輪に、体験的・探究的な学習をおして、問題解決力や活用力、創造力などの実践的な力を身につけ、さらに資格取得やキャリア研修、多彩な班活動と幅広く活躍する中で、切磋琢磨し高め合い成長しています。

100周年を機に、温故知新の教えに倣い先人の功績や歴史に学び、未来に思いを馳せるとともに、「豊かな人間性を育むいのちの教育」を不動の教育理念とし、調和のとれた人格形成と南信州の明日を創る産業人の育成に努めることが、本校に課せられた使命と考えております。

今後とも変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶といたします。



愛する下農 100周年

校友会長 松下 陽佳

大正9年に開校した下伊那農業高等学校は今年創立100周年を迎え、この記念すべき年に生徒として迎えられたことを大変うれしく思います。

本校の歴史を調べてみると、当時の下伊那地域は実業学校が一つもなかったため「この学校から巣立った人々によって、農業地として下伊那は開拓されていく」と言われており、開校当時から大きな期待が寄せられていたことがわかりました。開校当時の学校の周りには桑畑が広がり、午前中は授業、午後はクワ株を掘って畑を広げていく実習が日課でしたが、クワ株を引き抜くことは大変で辛さに耐えかねて退学する生徒もいたそうです。いま私達が何不自由なく学習に取り組んでいるのは先輩方の努力があったからだ」と知り、改めて感謝の思いを強くしました。

記念すべき100周年目にあたり、特に校友会役員は校友会活動に力を入れて取り組もうと意気込んでいました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で行事も中止や規模縮小になり、自分達の思いどおりにいかないことばかりで、頑張った考えた企画も行えないことが多く悔しい思いをしました。そんな中でも役員をはじめ全校で100周年を盛り上げようと取り組んでいるところです。今年度の校友会テーマは「アイする100周年 ～輝け!青春は無敵大～」です。このテーマには、100周年を迎える下伊那農業高等学校が生徒にとって愛すべき学校であると同時に、地域のみならず愛されるような存在であり続けたいという願いが込められています。実際に、地域のみならずはたくさんのお力添えをいただいております改めて感謝申し上げます。これからも地域に貢献し愛される下伊那農業高等学校でいられるよう生徒一同努力してまいります。

最後になりますが、先輩方の手により築き上げられた100年という長い歴史や伝統を継承し、下伊那農業高等学校の名に恥じぬよう、さらに発展させられるよう努めていく所存です。今後とも本校に対するご理解とご支援を心からお願い申し上げます、ご挨拶といたします。



贺 信

中国蘇州農業職業技術学院院长 李 振 陆

苏州农业职业技术学院

贺 信

下伊那农业高等学校：

值此贵校建校 100 周年之际，苏州农业职业技术学院谨向贵校致以热烈的祝贺，向贵校全体师生员工致以节日的问候和崇高的敬意！

百年育才，硕果累枝。贵校秉持“质朴·刚健、诚实·精通、积极·真挚”的教育目标，改革创新、坚持办学、历经艰辛、奋发进取，在培育农业专业技术与管理人才等方面取得重大成果，为区域经济发展和社会进步做出突出贡献。

自 1992 年贵校与我校开展合作以来，双方进行了非常友好愉快的来往交流，增进了两国文化教育的了解，加深了彼此的友谊。

值此庆典之际，衷心祝愿贵校与时俱进，再创辉煌。祝贺贵校百年庆典活动圆满成功！

敬颂
祺安



苏州农业职业技术学院

党委书记：

二〇二零年九月八日



祝 辞

長野県下伊那農業高等学校100周年の創立に当たり、蘇州農業職業技術学院は心より謹んで熱烈な祝賀を申し上げます。また、全校の教職員の方々と学生の皆さんに祝賀の挨拶と崇高な敬意を申し上げます。

この百年間、有為な人材を育ててきた貴校は、「質実・剛健」「誠実・堪能」「積極・真摯」の校訓をかかげて、学校を運営され、改革・革新を推進し、困難を乗り越えてこられました。

農業の専門技術を育てることで大きな成果を上げるとともに、地域の経済発展と社会の進歩に貢献されました。

1992年に貴校と友好学校提携して以来、双方は友好的な交流を行い、両国の文化や教育への理解を増進して、両校の友情と理解に深めてまいりました。

下伊那農業高等学校100周年記念式典の成功と、貴校が時代とともに進歩し、より大きな栄光を生み出すことを心から願っています。

蘇州農業職業技術学院
党委書記 李 振陆

2020年9月8日





創立100周年記念事業経過報告

平成 26 年 5 月 9 日	同窓会（拡大）役員会
平成 27 年 2 月 3 日	創立 100 周年記念事業小委員会
平成 27 年 4 月 15 日	創立 100 周年記念事業実行委員会準備会
平成 27 年 5 月 13 日	第 1 回 創立 100 周年記念事業実行委員会
平成 27 年 12 月 1 日	第 2 回 創立 100 周年記念事業実行委員会
平成 28 年 2 月 22 日	創立 100 周年記念事業実行委員会と支会長合同会議
平成 29 年 11 月 29 日	第 3 回 創立 100 周年記念事業実行委員会
平成 30 年 1 月 31 日	創立 100 周年記念事業実行委員会と支会長・事務局長合同会議 農業学習施設（仮称）建設
平成 30 年 11 月 28 日	第 4 回 創立 100 周年記念事業実行委員会
平成 31 年 2 月 13 日	創立 100 周年記念事業実行委員会と支会長・事務局長合同会議
令和 元年 7 月 22 日	創立 100 周年記念棟「蛟竜館」建設プレゼンテーション
令和 元年 11 月 27 日	第 5 回 創立 100 周年記念事業実行委員会
令和 2 年 2 月 19 日	創立 100 周年記念事業実行委員会と支会長・事務局長合同会議
令和 2 年 7 月 16 日	創立 100 周年記念事業実行委員会と支会長・事務局長合同会議

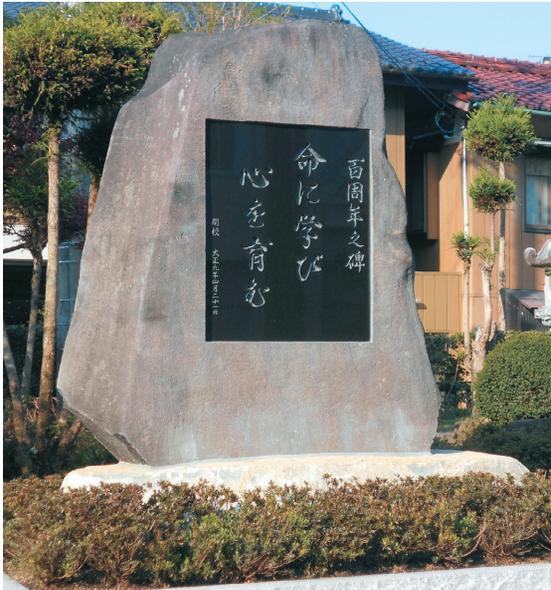
90 周年記念 その後の 10 年

平成 22 年 10 月 23 日	創立 90 周年記念式典挙行
平成 23 年 4 月	科学技術振興機構のサイエンスパートナーシップ事業（SPP）の実施
平成 24 年 9 月 21 日	管理棟耐震工事竣工
平成 26 年 8 月 23 日	第 69 回東海吹奏楽コンクール高校 B 編成の部出場 銀賞受賞
平成 27 年 8 月 30 日	第 70 回東海吹奏楽コンクール高校 B 編成の部出場 銀賞受賞
平成 28 年 8 月 28 日	第 71 回東海吹奏楽コンクール高校 B 編成の部出場 銀賞受賞
平成 28 年 11 月	畜魂碑建立
平成 29 年 3 月	武道場床改修、HR 教室窓に手すり設置（3・4 階）、機械棟屋根修繕
平成 29 年 4 月	学びと働きを連携させた信州創生のための人材育成モデル事業の実施
平成 29 年 7 月 15 日	第 4 回全国高校 7 人制ラグビー大会県予選会にて優勝 7 人制ラグビー全国大会出場
平成 29 年 8 月 26 日	第 72 回東海吹奏楽コンクール高校 B 編成の部出場 金賞受賞
平成 29 年 10 月	第 68 回日本学校農業クラブ全国大会 平成 29 年度岡山大会プロジェクト発表会 果樹班出場
平成 30 年 7 月	探究学習のための ICT 環境整備事業で電子黒板、タブレット等の整備
平成 30 年 7 月	管理棟屋根修繕
平成 30 年 10 月	第 69 回日本学校農業クラブ全国大会平成 30 年度鹿児島大会 プロジェクト発表会アグリ研究班（畜産部）・果樹班出場
令和 元年 10 月	第 70 回日本学校農業クラブ全国大会令和元年度南東北大会 プロジェクト発表会 果樹班出場
令和 2 年 3 月	混合棟屋根修繕
令和 2 年 3～5 月	新型コロナウイルス感染症の世界的流行により一斉臨時休校
令和 2 年 4 月	創立 100 周年記念棟「蛟竜館」竣工 創立 100 周年記念碑「命に学び 心を育む」建立
令和 2 年 6 月	教室に空調設備設置
令和 2 年 8 月	野球班 夏季高校野球長野県大会ベスト 8（昭和 39 年以來）
令和 2 年 11 月 14 日	創立 100 周年記念式典挙行



100周年記念事業にあたって

創立100周年記念事業 記念碑建立



百周年之碑建立 (令和2年4月)

PR横断幕設置



PR横断幕 (令和元年10月)

創立100周年記念事業 記念棟「蛟竜館」



「蛟竜館」上棟式 (令和2年2月)



「蛟竜館」竣工 (令和2年4月)

マイクロバス



納車安全祈願祭 (令和2年9月)

50周年記念碑改修



「発祥之地」記念碑改修御披露目式 (令和元年4月)



大正時代、下伊那地方には農業・商業・工業の実業学校が一つもないために、当時の郡会議員をはじめ地域の有識者はこれらの学校設立の必要性を力説していた。郡会は肥沃な農地と豊かな森林を活用することが地域の活性化であり、その人材養成として、郡の中心部に甲種程度の農学校の設置を決定し、私たちの学校が開校に向けて動きはじめた。

下伊那農学校時代

○大正9年4月、「郡立下伊那農学校」が、鼎小学校稲井分教場を仮校舎として、45名の生徒を迎えて開校した。職員、生徒らは周りの桑株を掘って農場を造り学校の基礎作りに努力した。卒業後は地域の農業経営者、上級学校に進学する者、小学校の先生になるなど様々な分野にすすんだ。翌年には校舎の完成とともに現在の場所に移った。その年の秋に雄大な伊那の自然と農業開拓を志す格調高い内容をもつ校歌を制定し、現在も旧校歌として歌い継がれている。



第1回入学生(大正9年)

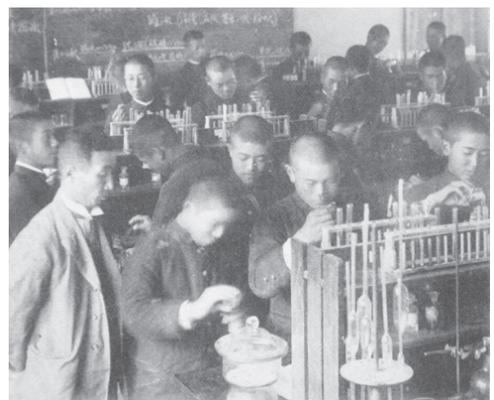
○大正10年11月、長野県知事をはじめ、多くの来賓を迎え、新しい校舎の落成式と開校式がおこなわれた。その夜はお祝いのちょうちん行列が飯田の町を練り歩いた。翌年に県立に移管され、校名が「長野県下伊那農学校」となった。



顕微鏡による病害観察(大正14年)

同年に校章の図案を東京美術学校(現 東京芸術大学)に依頼。美術学校では学生に公募し42点の応募があり、その中から美術学校が推薦してきた最優秀作品を、校内選考委員会を経て校章に決定した。スズタケの葉で縁どり、蛟龍が球を掴んで天に昇る図案の校章が誕生した。校章の由来は「蛟龍玉を抱いて天に昇る」の古代中国の書物からとっており、中央に玉を配し、その玉を蛟龍の爪で三方から掴み、周囲に信州を表わすスズタケの葉でデザインしている。蛟龍は天に昇る可能性を持った空想上の龍で、夢を抱く下農生をこの蛟龍と重ね合わせている。

○昭和4年7月、当時、我が国を代表する国際人の新渡戸稲造博士が本校で講演をおこなわれた。その記念に、「Boys, be ambitious!」「学如登山」を揮毫していただき、現在扁額となっている。



化学実験(大正14年)

○昭和5年11月、創立10周年記念式典がおこなわれた。記念事業としてグラウンドの拡張工事がおこなわれ、生徒が手作業で全校一丸となって、3ヶ月かけて4300平方メートルを7000平方メートルに広げ、現在のグラウンドができあがった。



○昭和12年、日中戦争の突入とともに戦時体制に入った。翌年には国家総動員法の公布を契機に、学校教育の中に労働力として生徒を動員する「勤労奉仕」が日常化した。生徒は出征軍人の家庭に出向き、水田や桑畑作業、味噌づくりなどの応援をした。生徒は厳しく貧しい中にも、不満も言わず最後の勝利を信じて頑張った。

○戦争の激化に伴い、勤労働員も激しくなり、昭和18年9月から11月にかけて援農動員として北海道に90名の生徒が行った。農家の人たちと朝早くから夜遅くまで大豆やジャガイモの収穫をおこない、広大な大地で懸命に働いた。

下伊那農業高等学校時代

○昭和20年8月、敗戦を迎えた。昭和23年に校名が長野県下伊那農業高等学校となり、全日制課程農業科、園芸科、林業科と定時制課程農業科、農村家庭科をもつ高校として出発した。

○新しい教育によって、教育の機会均等を実現するために、昭和23年から25年の間に下伊那郡内に17の定時制分校を設置した。その後、生徒数の減少で分校の統廃合がおこなわれ、昭和55年の高森分校を最後にすべての分校はなくなった。分校で学んだ生徒は2000名を越え、卒業生は地域社会の発展に貢献し活躍している。

○昭和24年、現在の校歌を制定。作詞は飯田市出身の詩人日夏耿之介先生、作曲は東大教授小松清先生。诗情あふれる農業賛美の校歌が誕生した。

○昭和27年、全日制の農業科に開校以来はじめての女子が12名入学。その後も女子生徒が入学し、昭和29年に女子1クラスの農業家庭科が誕生した。

○昭和29年から「施設設備拡充促進同盟会」が結成され、しだいに教育施設が充実してきた。昭和37年7月の体育館の完成をもって、9年間の施設設備拡充の事業は一応終わった。

○昭和34年7月、高校11回の卒業生が卒業記念として「Boys, be ambitious!」の碑を建立した。母校に学ぶ生徒が朝夕このクラーク博士の名言を肝に銘じ、一人ひとりの自覚に生かされることを願って建てた。



麦まき実習 (昭和12年)



軍事訓練 (昭和18年)



実習を終えて (昭和20年)



田植え競技会 (昭和33年)



沿革史(概要)

- 昭和36年6月、この地域を襲った豪雨は大きな被害をもたらした。10日ほど休校となり、生徒や職員は復旧工事や、リンゴの袋かけなどの手伝いに出かけ大変喜ばれた。手伝いで得た報酬で、夏休みに生徒と全職員が一緒になってブロック積みの運動班の班室を造った。
- 昭和41年4月、校友会の総会において「生徒心得の改正」の緊急動議が出され、その後、学校生活の規則について真剣な話し合いがおこなわれた。その結果、昭和42年より開校以来続いていた男子の丸刈り頭が自由化になった。
- 昭和45年11月、創立50周年記念式典をおこなった。記念事業として下伊那の畜産共進会をグラウンドでおこない、乳用牛約90頭 肉用牛約70頭 豚約90頭が出展されたいへんな賑わいをみせた。
- 校舎の老朽化が進み、同窓会を中心に校舎改築運動が展開された。昭和51年より順次校舎の取り壊しがされ、その後3年かけて現在の校舎が造られた。
- 平成2年3月、定時制閉科記念式典がおこなわれた。42年間続いた本校の定時制教育が終わった。その年の秋に創立70周年記念式典をおこない、記念事業として、校地内に茶室が建設された。また、中国との交流事業が始まった。
- 平成8年、コンピューターを導入した環境制御温室が農場にできた。全国の農業高校に先駆けての水耕栽培を基本とした温室で、新しい時代の新しい農業の学習がはじまった。
- 平成10年、体育館に隣接している土地を購入してテニスコート、翌年には水泳プールが完成した。
- 平成11年3月、林業科の閉科式がおこなわれた。昭和16年農林科としてスタートし、平成9年の卒業生を最後に53年間の林業教育が閉じられた。林業科の学習の一部は園芸クリエイト科の授業の中に取り入れられることになった。
- 平成12年、創立80周年記念式典がおこなわれた。記念事業として、庭園整備や農業シンポジウムをおこなった。



36災害復旧工事(昭和36年)



学校全景(昭和45年)



創立50周年記念事業・下伊那畜産共進会開催(昭和45年)



強歩大会(昭和40年代)



旧校舎(昭和40年代)



沿革史 (概要)

- 平成15年、時代に対応して教育内容の見直しをおこない、アグリサービス科、農業機械科、園芸クリエイイト科、食品化学科の4学科となった。
- 平成22年9月、体育館が完成した。長野県産のスギを腰板に使い暖かみのある体育館が誕生した。
- 平成22年10月、創立90周年記念式典が飯田文化会館においておこなわれる。



中国との交流 (平成6年)



環境制御温室完成 (平成8年)



創立80周年記念式典 (平成12年)

90周年記念式典の様子



中国蘇州農業職業技術学院からの記念品



斉藤有耶さんの「下農90年の歩み」発表



永島敏行氏講演



岩崎実行委員長挨拶



稲穂会の有志によるハンドベルの演奏



今牧元校長の乾杯



90周年記念冊子



90周年記念 その後の10年

- 平成23年4月から科学技術振興機構のサイエンスパートナーシップ事業（SPP）を実施した。大学や研究期間と連携し生徒の科学技術に対する関心が高められた。
- 平成24年9月、管理棟耐震工事を施工した。
- アグリ研究班（地域交流部）では、鳥獣被害対策で捕獲された鹿の肉の利活用をテーマに活動している。その活動の1つとして、「信州ジビエ高校生アグリレストラン」を平成25年から続けている。平成26年～28年には、長野県アンテナショップ銀座NAGANOで開催。平成27年～令和元年まで飯田市シルクホテルで開催。両会場とも定員を上回る申込みがあり大変好評であった。また、平成25年～令和2年まで天竜峡温泉交流館「ご湯くくり」にて定期的にジビエ料理を提供し、鳥獣被害の状況・耕作放棄地の増加等地域課題に対する情報発信を続けている。
- 平成26年10月、第24回全国産業教育フェア宮城大会第24回全国高校生フラワーアレンジメント競技に園芸クリエイイト科畠山真代さんが県代表として出場し全国第2位の銀賞を受賞した。平成27年10月、第25回全国産業教育フェア三重大会全国高校生フラワーアレンジメント競技に園芸クリエイイト科後藤藤さんが県代表として出場し全国第2位の銀賞を受賞した。以後3年連続で全国フラワーアレンジメントコンテストに出場した。フラワーアレンジメント技能のレベルが高まっている。
- 平成26年8月、第69回東海吹奏楽コンクール高校B編成の部に出場し銀賞を受賞（平成16年以来）し、以後平成27年8月の第70回東海吹奏楽コンクール高校B編成の部で銀賞受賞、平成28年8月の第71回東海吹奏楽コンクール高校B編成の部出場での銀賞受賞、平成29年8月の第72回東海吹奏楽コンクール高校B編成の部に出場し金賞を受賞し、東海大会に4年連続出場した。
- 平成25年10月、第64回日本学校農業クラブ全国大会埼玉大会へアグリサービス科藤井裕介君が北信越ブロック代表（北信越ブロック大会は平成8年度より開催）として意見発表会へ出場し優秀賞を受賞した。平成27年10月第66回日本学校農業クラブ全国大会群馬大会へアグリサービス科藤下拳成君が北信越ブロック代表として意見発表会へ出場し優秀賞を受賞した。平成15年の出場も含め3度のブロック代表としての出場は、専門学科や専門研究班の日々の活動成果が実った。
- 平成28年11月、畜魂碑を建立した。
- 平成29年3月、武道場床改修、HR教室窓に手すり設置（3・4階）、機械棟屋根修繕をおこなった。



SPP事業信州大学農学部
井上直人先生「雑穀の魅力」



平成25年信州高校生アグリレストラン
シルクホテルにて



第55回長野県吹奏楽コンクール当日の練習
平成27年8月



平成27年度収穫祭 全国大会
意見発表会へ出場した生徒の発表
フラワーアレンジメント作品は収穫祭用に
後藤さんが作成

90周年記念 その後の10年

- 平成29年4月から地元食品産業の人材育成を目的とした「学びと働きを連携させた信州創生のための新たな人材育成モデル事業」を実施した。
食品科学科の1年生の他2,3年生も地元の企業実習や企業訪問などを実施した。また、豆腐店、肉加工店などのプロのお話を聞き、地元を見る目を養った。加工室には蒸し器、冷凍庫、乾燥機、ワイン濾過器、真空カッターなどの機器が導入され加工室が整備された。
- 平成29年4月30日、伊那市陸上競技場で行われたアシックスカップ2017第4回全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会長野県大会にて優勝し、全国大会に出場した。
予選リーグでは福岡県代表の筑紫高校(7-19)と千葉県代表の流通経済大学柏高校(0-36)との2試合を戦い、決勝トーナメントはボウルトーナメントに進み、長崎県代表の長崎北陽台高校(5-22)と戦った。3戦3敗という結果に終わり全国の壁を痛感したが、下農魂を見せ感涙を誘った。
- 平成29年10月、第68回日本学校農業クラブ全国大会岡山大会プロジェクト発表会に北信越ブロック(平成29年度からブロック大会開催)代表として果樹班が出場した。(昭和50年以来)以後第69回日本学校農業クラブ全国大会鹿児島大会プロジェクト発表会、令和元年度南東北大会(宮城県)へ3年連続出場した。アグリ研究班(畜産部)は第69回日本学校農業クラブ全国大会鹿児島大会プロジェクト発表会へ北信越ブロック代表として初出場した。専門研究班の研究レベルが高まっている。
- 平成30年7月、探究学習のためのICT環境整備事業で電子黒板、タブレット等の整備が行われた。
- 平成30年7月、管理棟屋根を修繕した。
- 令和2年3月、混合棟屋根を修繕した。
- 令和2年3~5月、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により一斉臨時休校を実施した。
- 令和2年4月、創立100周年記念棟「蛟竜館」竣工し、創立100周年記念碑「命に学び 心を育む」を建立した。
- 令和2年6月、教室に空調設備を設置した。
- 令和2年8月、野球班は夏季高校野球長野県大会ベスト8(昭和39年以来)の大会結果を残した。
- 令和2年11月14日、創立100周年記念式典を挙



筑紫高校戦で自慢の脚力を見せる長谷部大成キャプテン。この後相手DFをかわし独走トライを決める。(東京都葛飾区総合陸上競技場)



平成27年10月第25回全国産業教育フェア三重大会全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト



平成29年10月日本学校農業クラブ岡山大会プロジェクト発表会に北信越ブロック代表として本校が初めて出場



「学びと働きを連携させた信州創生のための新たな人材育成モデル事業」の一環として食品化学科が校外の施設にて課題研究発表会を開催



下伊那農業高等学校校歌

作詞 日夏耿之介 作曲 小松 清

- 1. 時の流れのさがしくて
山はかたちをかゆるとも
川は濁波をあぐるとも
農はわれらのいのちかな
- 4. 山河うつくし伊那の里
「日出でて作り入りて息む」
「われらが父は農夫なり」
土はわれらのいのちかな



- 2. 松川白き春秋を
ここにつどひてはげむなり
風こしたかく朝夕は
ここにまどひてつとむべし
- 3. ああ生れては土にあり
人ことごとく直くして
本業とはにさかゆべき
農は平和のおほねなり



下伊那農学校校歌

作詞 飯島 武男 作曲 清水 勝蔵

- 1. 赤石永遠に崇くして
巍々千秋の色床し
時難にして義を思い
濁世に節を偲ぶかな
噫新興の気を負ひて
思ひは馳する摯実の
稲井ヶ丘の健男兒
玲瓏照らす国の本
- 3. 策を自給の忠誠と
堅実の地歩踏みしめて
不羈卓犖の吾が盟友が
神州の精を一道に
皇御国の礎と
志す男の自覚かも
十七萬の先駆ぞと
益良丈夫の血は躍る
- 2. 逝くものは夫れ斯くの如
龍河は萬古に清操の
流れに理想の影宿し
巖映あり意気溢る
身は青春の地に萌えて
光明の耒耜手にかざし
拓く荆棘の秋の水
希望はしるし永劫に
- 4. 彼の秀麗の色高く
此の雄大の影涵し
嵐の秋の紅葉ばも
穂末に結ぶ真珠にも
金蘭の熱さながらに
篤実の光愛の色
胸は高鳴る覚世の
光榮ある途に我は立つ





記念式典校舎内配置図

長野県下伊那農業高等学校
創立100周年記念式典 会場配置

